

事例 32

タイトル: 自分は利用者だと思っておらず帰宅願望が聞かれる

・ <事例の状況>

自分は利用者だと思っておらず、「なぜここに来ているのか？」とサービスの利用を納得できていない。デイサービスに来て、「誰が勝手に決めただ。」「私は知らない。」と混乱し「家に帰りたい。」「家に連絡するので電話帳を貸してください。」との訴えが頻回に聞かれる。職員の説明により、いったん納得することはあるものの、すぐに忘れて同じ行動が見られる。

・ <この事例で課題と感じている点>

早く利用に慣れて落ち着いて過ごしてもらいたい。本人の気が紛れるようなことをしていきたいが、帰宅願望は解消されず上手く関わりが持てない。

・ <キーワード>

混乱。 帰宅を訴える。 「自分は利用者じゃない。」

・ <事例概要>

【年齢】 80歳代前半

【性別】 男性

【職歴】 経理・事務

【家族構成】 妻と二人暮らし

【認知機能】 HDS-R 3点

【要介護状態区分】 要介護2

【認知症高齢者の日常生活自立度】 b

【既往歴】 白内障 肺気腫 前立腺肥大 アルツハイマー型認知症

【現病】 アルツハイマー型認知症

【服用薬】 アリセプト・アリナミンF糖衣錠(ビタミン)・テオドール錠・サアミオン錠(脳の動きを活発にする)・シンメトレル錠(筋肉の緊張をほぐす)・ハルナール・リスミー(安定剤)

【コミュニケーション能力】 自分の意思の伝達能力はある。話の途中で内容がわからなくなり、その場を取り繕うような話をする。日にち・曜日・時間を一日中繰り返し聞き、常にイライラしている。

【性格・気質】 真面目。几帳面。

【ADL】 食事、排泄、移動は自立。更衣は着る順番や衣類の裏表が分からなくなる時があるので見守りが必要。

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 野菜作り。散歩。カメラ。

【生活歴】 5人兄弟の4番目として生まれる。20歳代後半で結婚。2児をもうける。定年

まで経理の仕事をし、定年後は自宅で野菜作りをする。

今から5年程前より物忘れが見られるようになり、3年程前には半日前のことも忘れるようになる。また判断能力も低下し、勝手にリフォーム会社と契約をしてしまった。その後「アルツハイマー型認知症」と診断される。

物忘れが始まった次の年の8月からデイサービス週2回の利用。昨年从小規模多機能型のサービスに移行し現在に至る。

【人間関係】 もともと生真面目で優しい性格ではある。職員以外には自分からあまり話しかけない。大人数は好まない。

【本人の意向】 役に立つことをしたい。気の向くままに歩きたい。

【事例の発生場所】 小規模多機能型居宅介護事業所